

Kenmotsu
監物



2009.6.26
小山田市民センター
安性寺住職
竹内宜秀

まえがき

矢田監物は実在した人物であることは間違いないであろう。しかしその事実を裏付ける確固たる資料は数少ない。今回その監物に焦点を当て数少ない資料から監物像を探ってみたいと思う。

日本全国の村々には特定の姓を数多く名乗る地方は少なくない。氏姓を研究している方々によると、それは戦国時代にまでさかのぼるという。すなわち戦国時代のその地方の豪族の姓が発端となつていくことが多いという。山田町の矢田姓もその所以であると思う。今に残る監物伝説は一つとして悪いものはない。それだけこの地に監物は根付き誉れ高き人物であつたのだろう。

より深く探るほどにその謎は深まつて行く、まさに「監物ミステリー」である。

今回は私感を加えながらそのミステリーに迫りたいと思う。点と点をむすぶ空白は想像するしかない。現存する資料をもとに私なりに展開していききたいと思うが、一方皆さま方にも新たにその真実にせまる関心を持つていただきたいと思う。また、監物に関する資料（情報）がより多く発見されることを願うものである。

監物に関する年表

年代	事項	出典
1488 年 8 月	監物の槍が製造される。	銘文 備州長船 法光 長享二年 八月
1550 年 5 月 4 日	足利 1 2 代将軍足利義晴、近江国穴太で没。	歴史年表
1550 年 5 月 20 日	足利 1 2 代将軍義晴の葬儀が営まれて、常御所御座所（唐人の間）と会所嵯峨の間が用いられ、東求堂が僧侶の宿泊所に当てられた。	万松院殿穴太記
1550 年	戦国期、足利義晴に仕えていた丹波の人、矢田監物某が君主の死後、各地を放浪の後、当地に住まいし、旧主の菩提を弔う。	四日市市資料
1551 年	矢田監物某小山田に居城し長谷山万松寺を造立し、十一面観音像を安置す。また斎山八幡社造立す。	竹内弘 記「小山田郷土史年表」
1551 年	山田城（監物喜太郎）、小山城（監物小太郎）分立。	竹内弘 記「小山田郷土史年表」
1567 年	信長北勢を侵伐し弱小を併合せしも矢田氏僅かに免がる。	亀山地方郷戸史
1570 年	法源寺釈迦仏再興	竹内弘 記「小山田郷土史年表」
1573 年	矢田監物長島一向宗に味方し戦う。その頃一向宗に援助米を送り、返礼に七体の仏像をたまわる。	北勢地方郷土資料
1570～1591 年	天下騒乱伊勢国内分裂本村内に於ても、山田に矢田監物、小山に萩原小太郎、六名に則武某住して堂ヶ山を併せたりといふ。	亀山地方郷戸史
1583 年 1 月	滝川一益の兵北勢を蹂躪し小山田城破却せられしかば、矢田氏は城を捨て随従の士七十余人と共に去って秀吉に帰す。	亀山地方郷戸史
1583 年	秀吉諸将を発して土岐多羅口君が畑安楽越の三道山越を以て北勢に入り安楽越より来れる軍は峰川崎より亀山に向ひ次で北勢悉く秀吉の下風に立つ。かくして小山田村は秀吉の部将桑名の城主天野周防守の所領に帰す。	亀山地方郷戸史
1586 年	義誉専教が来村し法源寺を開基	広報おやまだ
1590 年	矢田監物相州小田原の陣にて戦死	亀山地方郷戸史

「三重・国盗り物語」 伊勢戦国兵乱私記より (服部哲雄・芝田憲 著)

今から四百年の昔、この地方はあちらこちらに小さな城、あるいは城とは呼ばれないような土塁、とりで、柵が築かれ設けられて、思い思いに土豪たちがひしめき合っていた。

ある日突然に手下を引きつれた隣の土豪が攻めこんでくる。民家も稲もたちまち火をかけられ、恐ろしい刃物の嵐だ。生首がころがり、草は血糊にぬれる。女たちは戦いの後のよいなぐさみものだ。夫役に狩り出され、夏の闇の中に法螺貝が響き、絶叫が野を走る。

農民たちは暗い木立ちの中で息を殺してふるえ続ける。夜が明け人影がなくなったのを見すまし恐る恐る草葺の家に帰れば、わずかな道具はけ散らされ踏みくだかれ、今日の米さえ奪い去られている。

「加富大明神記」の記録に残された監物 (澤野修甫 記 加富大明神記より)

文正・応仁(ぶんし・おうにん)の頃、日本国内で弓箭の難(きゆうせん)のなん 武士の争い、いくさが起こり、西北地域で大いに乱れた。兵戦は止むことなく、互いに他領を侵して境の土地を奪った。国司への貢物は支障し、神社の供料まで掠め取られて、郷民は大いに悩まされた。しかし、郷民にはこれを防ぐ手立てがない。

その頃、丹波の国の生まれで矢田監物某(やだけんもつ)ながしを名乗る勇士が、国の乱れを避けて当地へやってきた。郷民は大いに喜んでこの人物に従い仕え、間もなくこの郷の押領使(おうりようし) 昔、兵を統率して盗賊などを討つつ職。諸国に置れた)になってもらう取り決めに交わした。矢田氏は直ちに小城を築いて、この地を守護した。

以後、代々『監物』(けんもつ)を名乗って、既に数代を経たのである。

矢田氏と郷民が約束事を決めた場所は、現在「殿垣内」(とのかいと)と字する田地であり、お城のあった場所は、今は郷民の宅地になっている。また、後代の監物の妻の塚(つか) 土を高く盛って築いた墓があると言う矢田氏がこの地の守護になつて凡そ八、九十年経つが、それが何代に及んだということは解らない。

後代の監物は、天文(てんぶん)十九年五月に相州(そうしゅう)相模(さ摸)の国(こ)の小田原において討ち死にされたと言う。しかし、何の用で東国に下り、誰と戦つて討ち死にされたかは聞かない。その子の喜太郎(きたろう)は、天正(てんしょう)(一五七三年〜一五九一年)の頃まで浪々としてこの処に居城した。天正五年(一五七七)に多藝の国司(北畠氏)が没落し、その後、織田信長の家臣である瀧川左近将監一益(たきがわうこんのしょうげんのぶます・かずます)が当国に攻め入った。この時、各地で地頭や領主が戦いに破れ、喜太郎も敗北した。相従う諸士七十余名もことごとく敗走したと言う

監物ゆかりの地図



- ①西暦1551年矢田監物が、主君足利義晴の菩提を弔うため長谷山万松寺を建立し、十一面観音像（次ページ写真1.参照）を安置した。寺院は農地改良のため現存しない。
- ②監物の墓（次ページ写真2.参照）と伝えられる墓碑が安性寺裏山墓地にある。
- ③矢田監物の死後約150年間、家臣であった平尾某（なにがし）家系が観音堂を建て万松寺の十一面観音を移し安置したた場所。
- ④西暦1551年矢田監物来村の時浦山八幡山（うらやまはちまんさん）へ八幡神社を建立した。（写真3.参照）
- ⑤監物のものと思われる槍（写真3.参照）が発見された場所。
- ⑥監物の「館」（やかた、写真4.参照）が建っていたと伝わる場所。「姫屋敷」ともいわれた。
- ⑦監物の妻の墓（写真5.参照）のある場所。
- ⑧監物旧跡と書かれた棟札の入った祠（ほくら）（写真6.参照）が建っていた場所。
- ⑨監物が出陣したと伝わる「矢田びろ」（表紙参照）
- ⑩旧「法源寺」跡地。向山法源寺ともいわれる。（表紙参照）



監物の槍

記銘（表）備州長船法光
（裏）長亨2年（1488年）

8月

施主
元禄四年七月十日願政極
当村、平尾多兵衛の父
宝永四年十一月二十日亡

墓碑

万奈院殿尊儀

蓮語善？法子 薫？塚芳法子
心蒙妙？法尼 一？妙？法尼

壽山善水法子 樂善壽仙信士
照善妙芳信女 意信童子早世



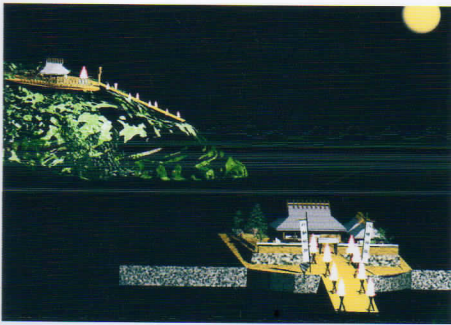
写真2.

監物の墓碑



写真1.

監物が主君の菩提を
吊った11面観音像
安性寺蔵



監物出陣前夜（想像図）

八幡神社と「館」を含めて
山田城（庄城）と言ったの
ではなかろうか？



写真4.

監物の「館」（想像図）



写真3.

1551年に監物が建立した八幡
神社（想像図）



祠の中の棟札（裏）
勢州三重郡小山田邑
矢田監物旧跡



祠の中の棟札（表）
文久3年神主秦周防正政安
奉勧請稻荷大明神
癸亥12月9日
願主平尾仲右衛門



写真6.

監物の祠（ほくら）



写真5.

監物の妻の墓とい
われる五輪の塔

あとがき

明神記によれば監物は小田原攻めにて戦死と記されている。小田原攻めそのものは無血開城で、戦闘のないいくさであるから小田原での戦死は納得しがたい。しかし資料を調べて見ると小田原への行程で数多くの戦闘が行われている。したがって小田原へ行く途中で戦死したと考えたほうが自然ではないかと思う。しかしこれも推論であり決定的な資料は今のところ何も見つからない。

監物の死後も監物の家族、家臣とその家族は山田に残って行つた。その証拠に監物の妻の墓、そして監物の墓碑にも八名の法名（戒名）が記されている。その人たちは山田で亡くなったことを意味している。血脈はその後も繋がっているのである。法名から察すると「誉」の漢字がたくさん使用されており浄土宗の法名の書き方と思われる。山田の浄土宗であつた法源寺（明治元年神仏分離令によつて廃寺）にて葬儀がなされたのであろう。

また、戦国時代から江戸時代になつたとき観音谷の自庵で十一面観音像を守り続け、また石碑を建てた平尾家系は江戸時代に入り初代庄屋となり小山田の村作りに貢献していったと考える。

平成二十一年六月

安性寺住職 竹内宜秀